

# 総務常任委員会記録

令和元年10月2日(水)午後3時00分～午後3時43分(9階908会議室)

## ○出席委員(9名)

委員長	白川 敏明	副委員長	鈴木 正実
委員	羽田 房男	委員	後藤 善次
委員	高木 克尚	委員	大平 洋人
委員	尾形 武	委員	村山 国子
委員	宍戸 一照		

## ○欠席委員(なし)

## ○議題

1. 所管事務調査について
2. その他

---

午後3時00分 開 議

(白川敏明委員長) 総務常任委員会を開会いたします。

宍戸委員より、若干おくれる旨の連絡がありましたので、ご報告いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりでございます。

所管事務調査についてを議題といたします。

本日は、まず皆様から調査テーマとすべき事項の案について述べていただきまして、その後、自由討議の中でテーマを決定したいと思います。

それでは初めに、各委員の案をお伺いいたします。

(尾形 武委員) 総務常任委員会、私も携わったことあるのですけれども、所管が総務ということでなかなかテーマが見つかりにくいというような委員会であります。その中で、消防は今までも2年のうち1回、1年くらいはやってきた経過があつて、今回は消防も出尽くしたのかなという感があります。そんな中で、喫緊の課題は東口の再開発事業などのテーマがどうなのかなんては思っておつたのですけれども、余りにもテーマが大き過ぎて、これもまた所管事務もやりにくいかわかりませんが、そういうこともいいのかなと思つていました。

(白川敏明委員長) では、詳しくは後ほど。

(大平洋人委員) 私は、副議長からもお話出ましたけれども、何か消防がちょっと多過ぎるような感じがするので、消防以外がいいのではないかということぐらいで、そのくらいでしょうか。

(羽田房男委員) 正副のほうで案があったのかなというふうに思っていたものですから……

(白川敏明委員長) ございませんで、皆さんからお願いします。

(羽田房男委員) ちょっと考えてこなかったのですが、皆さんのご意見をいただいて、私もそういう方向でということ。

(高木克尚委員) 羽田委員と全く同様なので、長年総務に携わってきた宍戸委員にご期待を申し上げますが、まだおいでにならないようなので、一通り皆さんのご意見を聞いてから、皆さんと一緒に考えたいと思いますので。

(後藤善次委員) 何をテーマにしているのか、なかなか総務常任委員会は難しいなという、そういう思いでございました。皆さんのご意見を。

(村山国子委員) 私も福島駅前東口の、政策調整部所管になるのかなと思うのですが、コンベンション施設がいいのかなと思います。

(鈴木正実委員) 済みません。私も若干ながらということで考えておったのは、公共施設の管理ということの幅広い中におけるコンベンションも含めた東口、政策調整部所管ということで、政策調整部から商工観光に行く手前までに何とか考えられるものがあれば、それも1つかなと。

もう一つは、各自治体のほうで今取り組んでいるものということで、ICT関係、特にRPAという作業単純化、人口減少の中で職員が減少していく、その中で作業の効率化を図っていくべきであるなんていうことで、従前姫路市あたりを私どもで視察した経緯がありまして、やはり職員数を減らしていく、その中で作業はふえている。では、それをどういうふうに対応していくのかというのはICT化しかない。その中でもRPAであるとかAIによる作業の効率化。AIも総務省のほうでは随分取り組むべきであるということで、ディープラーニングという、AIにいろんなことを吹き込んでいながら進化させていって、10年後にこうなるとか、何かそういうような新しい時代が来ているので、私とすれば公共施設、コンベンションを含めた関係とICT関係の2つかなと。この2つあたりかななんて思っていました。

(高木克尚委員) すごくいいアイデアなのですが、ただいまの副委員長の発言は、もうちょっと補足していただかないと、非常に誤解を生みますので、職員を減らすためのシステムではなくて、必要なところにふやすために、効率化を図る上で、それを導入して減らしていくというふうに、全体を減らすイメージにとらわれないように、ひとつご訂正いただければありがたいのですが。

(鈴木正実委員) そのあたりは、削減って、職員の働き方改革とか、そういうものにつながっていくであろうということ。あとは、もう一つは、今ビッグデータなんていうことになっていますけれども、なかなか福島市ではそのビッグデータの活用なんかもICTの中で見えてこない。そういったことなんかを含めて、いろんな意味で効率的な業務のあり方を探るためにも、ICT化あるいはRPA導入による作業の効率化なんていうのは今後必要になるのかなという思いでございます。

(高木克尚委員) 先進事例って多いの。

(鈴木正実委員) 先進事例は、私ら行ったやつで、対話型問い合わせ機能導入なんていうことを姫路市ではやっていて、要するに窓口の一方的な受け答えなんていうのは職員がやる必要なく、機械がやるよというような話とか、そのかわりに直接行ったほうがいいのだというような対応。あとは、実はこれは令和元年9月に議会資料として配ったやつがありまして、この中で大分県別府市なのですけれども、RPA導入で業務時間1,000時間削減というふうなことを具体的に取り組んでいる。あともう一つは、議会関係での議事録作成でAIを導入して、多分これはOCRとか、言語をそのまま文字化するような仕組みなのだと思います。書き起こすというのが物すごく手間がかかる、後で会議録をつくるのも大変だというときに、そういった議事録の作成における省力化というのですか、そういったことなんか今後働き方改革にもつながっていくし、いろんな意味で作業の平準化的なものもできていくのではないかとということで、この資料なんかを私は参考にさせていただいております。

(白川敏明委員長) このRPA、私も実はこれ調べていたのです。そして、やっぱり職員を減らすのではなくて、これは自然減なのです。全部、職員でも何でも。でも、人口が減って職員が減っても業務内容は余り変わらないのです。そのときどう対応するかというのもこのRPAかなという。これは、小田原とかあっちのほうが、ちょっと場所的に広域連携とまざっているんで、ちょっと記憶あれなのですけれども、小田原とかあっちの岡山とかのほうでこれ取り組んでいるのかなというあれもあったような気がします。

(宍戸一照委員) 済みません。遅くなりました。

(白川敏明委員長) 今皆さんのご意見を伺っていたのですけれども。

(宍戸一照委員) 言っているのですか。皆さん大体もう方向性が出ているのでしょうか。

では、1つは、西庁舎の調査特別委員会はできているので、東口交流施設、これ125億円もかけるわけだから、やっぱり議会として全員協議会だけでいいのかと。やっぱり交流施設はどういうものかということ調べてみるのもいいのかな。ただ、所管事務調査で総務、政策調整部からいつそっちに変わるのか、どこに変わるのか、時期的な問題もあるけれども、そんなに、ことしあれして来年すぐ変わることもないだろうなと思っているので、そうすると2年ぐらい我々が調査研究してもいいのかななんて思ったりもしたところが1つ。

あと、公共施設のいろいろと当局はこれからのあれをつくっているわけだけれども、全然結論がまとまらない。個別計画をつくりますというような話は出ているけれども、全然まとまっていないので、どうなのか。当局から一方的に話が出てくるのを待っているだけでいいのかというふうなことです。それを議会としても、やっぱり我々としても、財務部所管だから、いいのかなと。なんていうふうに思ったところでございます。

(白川敏明委員長) でも、それって、例えば調査しているときにいきなり変わってしまったら、もう何か目も当てられないという感じ。

(高木克尚委員) 相手が民間では踏み込めない部分があって、物すごい障害ばかりだよな。

(**宍戸一照委員**)ただ、そのまま放置しておいて、ただ当局から、はい、こういうふうになりました、全員協議会で説明を受けて、それに対して、ただ一方的に我々が質問して終わりというふうなあれでいいのかなというふうな思いがあったものですから。これは、前にも高木さんにも申し上げたところなのですけれども。

(**白川敏明委員長**)それでは、自由討議に移りたいと思います。

【この間自由討議】

(**白川敏明委員長**)そうしますと、東口再開発事業、つまり公共施設の戦略的再編とかというテーマと、あとICT化、RPAに絞られたかなと、こう思うのですが、それをこの次に、次回それを決めたいと思うのですが、それでよろしいですか。

(**羽田房男委員**)委員長、2つに1つにしようという考え方なの。

(**白川敏明委員長**)はい、そう思っています。

(**羽田房男委員**)では、ここで決められるのではないの。正副でこっちがいいよと言えば、そこで。

(**白川敏明委員長**)正副委員長としては、ICT化というか、RPAのほうで調査を行いたいと思うのですが、皆さん、いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(**後藤善次委員**)あと、所管事務調査になるかどうか、その辺検討していただいて。

(**白川敏明委員長**)はい。当局のほうとも一応議論をして。

(**宍戸一照委員**)そういう方向性で当局と調整をしてみただいて、その後で、次回でも最終決定をすればいいわけでしょう。委員長としてはその方向性でやりたいと。調査を進めますということでしょう。

(**白川敏明委員長**)次回は10月17日の予定になっていましたよね。そのときに正式に決めたいと思いますので。

(**村山国子委員**)済みません。そうすると、所管事務調査にその駅前がなるかどうかを調査して、そうするとまたちょっと考える余地もあるという感じでしょうか、今の言い方では。

(**白川敏明委員長**)今決めようということだったものですから、RPAのほうで、ICT化のほうで今話は進めたいと思ったのですが。

つまりICT化、つまりRPAということで正副委員長手元で当局との現状の確認を行いまして、次回再度協議したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(**大平洋人委員**)要は確認、最終的な確認をとるということですよ。だって、それでもう一回議論したって、もう一回やらなければいけない。あと2回やることになってしまいますよ。

(**白川敏明委員長**)ご異議がないようですので、次回はそのように進めてまいりたいと思います。

そのほか何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(白川敏明委員長) それでは、以上で総務常任委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

午後 3 時 43 分 散 会

総務常任委員長 白 川 敏 明